

3 検査科

[人事など]

2013 年度は品川部長・加野象次郎臨床検査専任部長のもと、常勤臨床検査技師 17 名、臨職臨床検査技師 5 名、委託職員 2 名（受付・洗浄）で業務を行いました。2012 年度末の神保担当課長退職に伴い、伊藤が担当課長・鎗木が課長補佐に就任しました。

12 月より、病理担当部長として、出張玲子先生を迎え、常勤 2 名の病理診断体制が整いました。菊池眸が育児休暇より復帰し、経験のある細菌検査に加えて、生理検査業務に従事し、新たな経験を積みました。

8 月以降、臨時職員の度重なる退職があり厳しい状況となりましたが、科内研修会の開催・各部門での勉強会開催や、積極的な学会参加で、全体のレベル向上を図りました。

また、インシデントレポート・時間外日報の有効活用に加えて、2012 年 12 月より開始した業務週（日）報の定着化により、科内全体の情報共有と意識改革に努めました。検査件数の増加に加えて、新しい検査の導入など、検査科に対する期待や要望が多く寄せられています。マンパワー不足ではありますが、少しでもご期待に沿えるように、検査科全体で取り組んでいきます。

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
検査総件数	1424421	1390098	1466682
外来総件数	1004309	1024197	1081415
入院総件数	420112	365901	350958
外来/総件数比率	0.71	0.74	0.74

	2011 年度	2012 年度	2013 年度
外注件数	31700	31171	34309
外注金額	3417229	3411193	408765172

[採血室]

外来患者数増加と、検査の外来比率増加により業務量が増えました。2 期移転まで仮設での運営で、スペースが狭いなどの問題を抱えながらも、できるだけ待ち時間を減らすために、8 時からの採血業務に検査科全員体制で業務にあたりましたが、待ち時間が 30 分以上になる事も多くなってきました。2014 年度末の移転後は採血ブースを 1 台増設し 5 台とする予定です。

採血室採血者数	2011 年度	2012 年度	2013 年度
合計	50124	51280	57009
日平均	204.6	210.2	234.1

[検体検査]

6 月よりフェリチン、7 月より肺炎球菌莢膜抗原定性（髄液）の院内検査を開始しました。また、当直担当者に対してトレーニングを行い、6 月より CADP・髄液の細胞数検査

を、7月よりDダイマー検査を24時間対応項目としました。

常勤医による血液内科診療が活発となり、骨髄像など血液疾患に関する特殊検査が増加しました。

検体検査部門	2011年度	2012年度	2013年度
一般検査	68031	66369	67795
血液学的検査	132174	132604	139136
生化学的検査	1010799	994490	1040465
内分泌検査	6995	10720	16701
免疫学的検査	109670	107640	136965
検体合計	1327669	1311823	1401062

[生理検査]

毎年業務量は増加し、2013年度は前年度比110%となりました。特に血管領域・乳房超音波検査は、前年度比130%と増加しました。各職員の専門的技術修得に努め、緊急検査要請にも対応できるような体制を整えてきました。

生理検査部門	2011年度	2012年度	2013年度
循環器機能検査	13012	13433	14730
脳・神経機能検査	213	287	232
呼吸機能検査	2446	2710	3227
前庭・聴力機能検査	1288	1870	1513
超音波検査	8609	8693	9793
生理機能その他	270	182	191
生理合計	25838	27175	29686

[細菌検査]

抗酸菌液体法感受性の院内検査開始により、結核患者様の適切で迅速な治療に貢献しました。結核療法研究協議会の結核菌薬剤感受性検査外部精度管理評価2013に参加しました。

院内感染対策の重要性が増す中で、検査結果の統計データが重要になってきています。感染対策委員会活動に生かせるよう、データ解析を積極的に行いました。

細菌検査部門	2011年度	2012年度	2013年度
塗抹・形態検査	8008	6715	6661
培養同定検査	17782	15915	16217
薬剤感受性検査	2906	2850	3035
微生物その他	141	159	312
細菌合計	28837	25639	26225

[病理検査]

年度途中から病理医 2 名体制になり、2014 年 2 月より病理診断加算Ⅱを取得しました。婦人科検診が順調に伸びたため細胞診検査は前年比 110%と増加しました。

また、病理組織検査は 110%、迅速凍結組織検査は 128%と件数増加を認めました。

10 月より乳癌 HER2 検査を院内検査とし、報告短縮によりスムーズな治療に貢献する事ができました。

初期研修医については、例年のクルズスに加えて、1 名を 1 ヶ月受け入れました。

消化器カンファレンスおよび乳腺カンファレンス（合計 12 回）と C P C（5 回）に中心的に関与しました。

病理検査部門	2011 年度	2012 年度	2013 年度
細胞診検査	3948	3991	4373
病理組織検査	2874	2967	3268
迅速凍結組織検査	95	81	104
電子顕微鏡検査	19	17	18
病理解剖	21	13	12
免疫組織 その他			868
総件数	6957	7069	8643

[輸血製剤管理]

血液内科診療の充実と共に、使用血液製剤が増えました。また緊急性の高い輸血請求も増加したため、蓄製剤数を増やし、対応能力の向上に努めました。

血液製剤使用単位数	2011 年度	2012 年度	2013 年度
赤血球製剤	2475	2170	2654
新鮮凍結血漿	1221	791	304
濃厚血小板	2150	1405	2535
自己血 CPD	285	283	281
輸血合計	6131	4649	5774

[夜間・休日検査]

救急患者受け入れの増加と共に、件数は増加し前年度比 146%でした。年末年始は一部増員して細菌検査も含めて迅速な報告に努めました。検体検査・心電図・輸血製剤管理・結核菌検査など多岐にわたる業務を 1 名の技師で対応しています。一度に色々な検査オーダーが出た場合や大量出血への輸血対応や分析器故障が発生した場合など、1 名のみでの対応では非常に厳しい状況に陥る場面が多くなってきました。

夜間休日検査	2011 年度	2012 年度	2013 年度
総件数	5964	6600	9687

[チーム医療への参加]

ICT・NST・CKD・糖尿病教育などに積極的に参加しました。院内心電計・血液ガス装置の保守管理も行いました。

[教育・研修]

2月の臨床微生物学会発表や各専門学会・講習会へ積極的に参加しました。また科内研修会も頻繁に開催しました。

臨床検査技師実習生3名の現地実習を約4ヶ月受け入れました。

初期研修医クルズスは、“検査全般”、“輸血検査”、“細菌検査”について行いました。

薬剤科実習生、近隣中学・高校生見学を受け入れました。

(文責 検査科担当課長 伊藤 万里子)